

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成23年度業務実績報告書

[論点整理表]

□ 全体的実施状況

5 財務内容の改善に関する目標

・ 財政基盤の強化を図るため、平成23年度は4件に止まった文部科学省科学研究費補助金の公募に13件応募した。




・ 財政基盤の強化を図るため、平成22年度は4件に止まった文部科学省科学研究費補助金の公募に13件応募した。

〔実績文言修正〕

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標
 イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(イ) 美術モデルを利用した授業の在り方を見直し、弾力的な配置を行い授業内容を改善する。	美術科（特に日本画、油画、彫刻各専攻）における美術モデルを利用した授業を見直して授業内容を改善した。  <u>美術科（特に日本画、油画、彫刻各専攻）において、従来年間を通して継続的に行っていた美術モデル（裸婦）を活用した授業を、モデルを利用しない映像表現、立体表現、版表現の授業やコスチュームモデルを活用した授業への切り替えなど、学生の希望を取り入れて、弾力的に美術モデルを活用できるように授業内容を改善した。</u>	Ⅲ	

9 新規

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価

【意見】

- ・年度計画には「弾力的な配置」とあるが、業務実績の具体的な記述に欠ける。
- ・「授業を見直して授業内容を改善した」とあるが、何をどう改善したのか、具体的な記述に欠ける。

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(オ) 社会の第一線で活躍するデザイナーの講師招聘を充実する。	デザイン科として各業界を代表するデザイナーや企業人など78名（視覚デザイン26名、製品デザイン15名、環境デザイン37名）を講師として招聘し、実践的な教育を推進した。	Ⅲ	

12 継続

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年 度評 価
(カ) 社会の第一線で活躍するデザイナーの講師招聘を充実する。	各業界を代表するデザイナーをデザイン科の各専攻毎に20名～30名程度を講師として招聘し、実践的な教育を推進した。 (補足説明) 特に環境デザインにおいて、従来からの建築系インテリアやエクステリア分野からの講師招聘に加えて、新たに建材メーカーに所属するデザイナーや社長を講師として招聘し、技術や知識だけではなく、デザイナーとして社会で自立していくための方法等についての実践的な指導を行った。	Ⅳ

【質問】

・23年度の招聘講師数は22年度と同程度と思われる。前年度の「Ⅳ」評価に対して今年度は「Ⅲ」となっているが、どのような基準で自己評価したのか。

中期目標	エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。 【22年度】	(ア) 学生の質を保証するため、22年度から検討している履修状況と成績評価方法の再点検の結果をまとめ、年間修得単位の上限の設定し、24年度入学者から適用する。	教務委員会及び大学院運営委員会において成績評価の基準についてシラバス上の表記を改善した。また、年間修得単位について上限を設定することについては、本学では実質的に専攻必修の実技科目の単位数が多く、取得単位の上限を設ける実質的な有効性についての検証が不十分であることから、平成25年度入学生からの適用を目指して、さらに検証を重ねることとした。	Ⅱ	

26

完了・新規

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(ア) 学生の質を保証するため、履修状況と成績評価方法の再点検を行い、年間修得単位の上限の設定を検討するとともに、客観的な指標とその評価基準を確立し、成績評価基準と学位授与基準を策定し公表する。	教務委員会と大学院運営委員会に成績評価基準と学位授与基準策定のワーキンググループを年度当初に設置して、履修状況と成績評価方法の再点検を行った。また、年間修得単位の上限の設定の検討を行った。成績評価基準についてはシラバス上の評価方法の表記を改善しホームページ上でも公表した。学位授与基準については、大学院学則、大学院履修等に関する規程及び学位規程に明記しホームページ上で公表するとともに、さらに論文博士の論文認定については、新たに評価基準を策定した。	Ⅲ

〔質問〕

・「年間修得単位の上限設定」という課題に対して、「検証を重ねる」とあるが、実施の見込みはあるのか。今後どのように対応するつもりなのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標	ア 学生が自主的に学習に取り組むことができるようにするため、学習環境や学習相談体制を整備する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 個々の学生の自主的な学習を支援するため、オフィスアワーの周知をさらに進め、学習相談の利用を促進する。【22年度】	(7) オフィスアワーの周知を図るとともに、学生相談室を活用した就学相談などに取り組むほか、新生を対象に実態調査を試行し、学生の個性に応じた個別指導を充実する。	全教員のオフィスアワーをシラバスに掲載するとともに、年度当初のガイダンスにおいて、全学生に対してオフィスアワーを活用することを促した。 また、学生相談室に学修支援担当の教員を配置し定期的に相談日を設けるとともに、新生に対しては 精神的健康度をチェックするUPI 精神健康調査を実施し、その中の21名に対して指導を行うなど、個別指導を充実させた。	III	

48 発展

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(7) オフィスアワーの周知や学生相談室を通じ個別指導を充実する。	年度当初のガイダンスにおいて、学生からの日常の学修や学生生活に関する相談に応じるために各教員があらかじめ設定した時間帯（オフィスアワー）の有効活用について説明するとともに、シラバスにも全教員のオフィスアワー時間を掲載して周知を図った。また、学生相談室に学修支援担当の教員を配置し、定期的に相談日（学事期間の毎週火曜日）を設け、個別指導を充実した。	III

〔質問(実績文言修正)〕

・「UPI精神健康調査」とは何か。

中期目標	イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 学生相談室の機能の向上やメンタルヘルス指導を充実する。	(7) 大学生活全般に関する相談指導に学生相談室で積極的に応じる。	学生相談室に専門の心理カウンセラー1名、学修支援担当教員1名、産業カウンセラーの資格を有する非常勤職員であるインターカー(初回面談の担当者)1名、保健担当看護師1名のほか、各科の教員4名を配置して、大学生活全般に関する相談指導に積極的に応じた。 さらに心理面や修学面で問題を抱える学生を対象に年間219件のカウンセリング(実数57人)のほか、欠席がちの学生や心理面から学修に支障を生じていると思われる学生を抱える教員や保護者を対象に94件のコンサルテーション(接し方や指導方法についての相談)(実数31人)に応じた。	Ⅲ	53 継続

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(7) 学生相談室の体制を堅持し、大学生活全般に関する相談指導にも積極的に応じる。	専門の心理カウンセラー1名、学修支援担当教員1名、インターカー1名、保健担当看護師1名及び各科の教員3名を配置して、学生相談室の体制を堅持した。 年間210件のカウンセリング(実数42人)のほか、教職員へのコンサルテーションも108件(実数37人)を行い、大学生活全般に関する相談活動に積極的に応じた。	Ⅲ

〔質問(実績文言修正)〕

・「インターカー」、「コンサルテーション」とはどのような定義で使っているのか。

中期目標	ウ 学生が適切な進路選択を行うことができるようにするため、就職等の支援体制を充実する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
学生の進路や就職活動等に対して専門的な助言指導を行うため、情報のデータベース化やキャリアアドバイザーの配置等を検討し、具現化を図る。	(ア) 各専攻での就職指導対策をもとに、求人や進路に関する情報のデータベース等による情報共有や専攻間・教員間の連携により指導の強化を進める。	引き続き、図書館に就職や進路に関する図書を整備し閲覧に供したほか、求人情報に関するデータを学生・就職コーナーのパソコンに掲載した。さらに、美術科とデザイン科の間での全学的な共有のための検討会を持ち、その結果、特に美術科学生にとって就職ガイダンスの必要性が高いことが判明したため、3年生の就職希望者を対象として、キャリアカウンセラーによる就職支援説明会を開催するとともに、個別の就職相談を試行した。	IV	

57 発展

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(ア) 求人や進路に関する情報のデータベース化を検討し、情報の共有を通じて、専攻間・教員間の連携に取り組む。	キャリア・ガイダンスの充実を図るため、各専攻の情報を集約し、特に美術科とデザイン科の間での全学的な共有のための検討会を持った。 また、図書館において就職や進路に関する図書を整備し閲覧に供した外、求人情報に関するデータを学生・就職コーナーのパソコンに掲載し、検索できるようにした。	III

〔意見〕

- ・「教員間の連携」に対する説明が必要である。
- ・キャリアカウンセラーの活用は、現在では当然に取り組むべき事項であると思われる。他の取組を含めても「IV」とまでは言い難いのではないか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標
 ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(オ) 文部科学省科学研究費補助金において、段階的に申請件数の増加を図り、計画期間最終年度には10件の申請を目指し、これを通じて教員個人の研究活動を活性化する。	(カ) 文部科学省科学研究費補助金の5件以上の申請をめざし、学内研究の活性化を図る。	13件の文部科学省科学研究費補助金申請を行い、学内研究の活性化を図った。	IV	

66 継続

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(キ) 文部科学省科学研究費補助金の5件以上の申請をめざし、学内研究の活性化を図る。	文部科学省科学研究費補助金申請は4件行った。	II

〔質問〕

・中期計画の10件を上回ったことが「IV」評価の理由か。24年度以降の件数目標をどのように考えているのか。
 ※次ページも同様。

財務内容の改善に関する目標
 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標
 財政基盤の強化を図るため、競争的資金の獲得や寄附金その他の外部資金の導入に積極的に取り組む。

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(2) 文部科学省科学研究費補助金等の競争的資金の獲得に取り組む。	(2) 24年度の文部科学省科学研究費補助金の公募に、5件以上の申請をめざす。	24年度の文部科学省科学研究費への応募は13件を数えた。また文部科学省科学研究費以外に「三谷研究開発支援財団」及び「国土政策関係研究支援事業」にそれぞれ1件、さらに「科学研究費補助金 研究活動スタート支援」に2件申請した。	IV	

102 継続

前年度計画	前年度業務実績 (計画の進捗状況)	前年度評価
(2) 23年度の文部科学省科学研究費補助金の公募に、5件以上の申請をめざす。	文部科学省科学研究費補助金に4件、文化庁メディア芸術育成支援事業に1件、さらに(財)三谷研究開発支援財団への事業に3件応募し、競争的資金の獲得を目指した。	II